

こんなに覚えやすい文字はほかにない

幼児への漢字教育に対する最大の非難は、「まだかなも読めない幼児に漢字とは乱暴すぎる」という論です。しかしこれは、漢字というものはむずかしいもの、子どもにはわからないもの、という固定した考えから出ているのです。

ところがわたしは、実験をとおして、幼児は、かなよりも漢字のほうをよく覚えることを確かめております。三歳の子に漢字を読めるようにすることは、六歳の子にかなを読めるようにするよりもやさしいのです。

世界のいろいろな文字のうちで、幼児にとって、漢字ほどやさしく覚えられる文字は、ほかにはないように思われます。なぜそうなのかな、あとで述べますが、とにかく、最近の実験で、最も容易に漢字を覚える時期は、三～四歳のころであることがわかりました。つまり、漢字教育をしている各幼稚園からの報告は、いずれも「四歳児の方が五歳児よりも抵抗なく漢字を吸収する」と記録しております。

記憶の仕方には、論理的な記憶の仕方と機械的な記憶の仕方が

あって、機械的な記憶は、三～四歳の幼児期が最高で、この時期を過ぎると、あとは衰える一方だと言われますが、言葉や文字は、論理的な記憶よりも主として機械的な記憶によっているので、ことに日常よく使われる言葉や文字は、幼児期に環境から自然と吸収させるように配慮するのが、いちばんいい方法なのです。